



6月3日から、ワシントン条約の会議が開催されています。

6月3日～15日、第14回ワシントン条約締約国会議がオランダのハーグで開催されています。トラフィック イーストアジア ジャパンは、締約国会議に向けて数回のシリーズでワシントン条約関連情報を各マスメディア関係者の方々に配信することにしました。会議に関する正確な情報の入手や取材の参考としてお役立てください。また、ご不明な点や詳細に関してはトラフィックまでお問い合わせください。

ペットとしても人気のスローロリス

日本でもペットショップで売られていたり、有名人の中にも飼っている人がいます。

■ 日本での販売価格（トラフィック調べ）

スローロリス：10万5千円～40万円

ピグミースローロリス：15万円～38万円

日本の輸入

スローロリス *N. coucang* は1975年からワシントン条約の附属書Ⅱに掲載。1977年には霊長類すべてが附属書Ⅱに掲載された。

→輸出入には輸出国の許可書が必要。

また日本は2005年より感染症予防の観点からペットのサル属の輸入を禁止している。

日本のスローロリス *N. coucang* の輸入頭数
：635頭（1985-1999）

2000～2005年までに正式な手続きを経て輸入した記録はない。（CITES Trade Database）

日本人による密輸事件

日本人による密輸が国内外で報告されている。つい先日（5月2日）に成田空港で過去最高の約40頭が押収されている。

-2006年6月 成田税関支署は成田でスローロリス数十頭をタイから密輸しようとした男性を2度にわたって、摘発した。

-2006年11月 タイの新バンコク空港で、日本人がスローロリスを密輸出しようとして逮捕された。タイでは昨年これ以外にも少なくとも2度スローロリスの押収があった。



© WWF / Rob WEBSTER

- 1999～2007年の間に、タイから日本への密輸で、押収されたスローロリス属は、わかっているだけでおよそ170頭にものぼる。

関連ウェブサイト

トラフィックネットワーク（英語）：www.traffic.org

トラフィックジャパン（日本語）：www.trafficj.org

トラフィックイーストアジア（中国語）：www.wow.org.tw/

ワシントン条約事務局（英語）：www.cites.org

スローロリス属とは

- 小型の夜行性の霊長類。
- インド北東部、中国南部から東南アジア大陸部を経てインドネシア西部まで広く生息する。
- 野生個体群の生息状況についての情報は不足している。

© WWF-Canon / Mikail KAVANAGH

スローロリス属の3種

- スローロリス

N. coucang

- ピグミースローロリス

N. pygmaeus

IUCNレッドリスト：危急種 (VU)

- *N. bengalensis*

分類については諸説ある。



スローロリスは、身体の動きが遅く、じっとしているのが得意。樹脂、果物、種子や昆虫、クモなどの小動物を食べる。

今回の提案では

スローロリス属全種を附属書Ⅱから附属書Ⅰ*に移行して、国際取引を原則禁止する提案がカンボジアから出されている。

*附属書Ⅱの場合、日本国内での販売・譲渡などについては規制がないが、附属書Ⅰになれば「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」でそれらが禁止されることになる。

トラフィックはこう考える

野生個体群の状態に関する具体的なデータが不足している。国内で取引される伝統薬、ペット、食料としての需要による悪影響の方が、大部分が違法でおこなわれる国際取引（ペットとして）の害よりも大きいと考えられる。附属書Ⅰ掲載を正当化する決定的な生物学的根拠はなく、附属書Ⅰへの掲載は違法取引の規模に影響を与えそうもない。生息国と消費国に対し、協力の改善と取り締まり活動の強化を奨励すべきである。このような理由でこの提案には反対している。

しかし、日本では密輸事件が起きており、この動物の違法取引を防止する努力が必要である。

トラフィックジャパンのここに注目

2006年以降、タイから日本への密輸事件で押収されたスローロリス：およそ140頭！

TRAFFIC

トラフィック イーストアジア ジャパン
(略称：トラフィックジャパン)

— EAST ASIA - JAPAN —

TEL:03-3769-1716 E-mail: traffic@trafficj.org